

インタラクティブ空間演習 (女子美術大学大学院)

【講義】 コミュニケーションのモデルの端緒
～叩き台としての「シャノン-ウィーバー・モデル」～

講義担当： 石井 拓洋
takuyo.ishii@gmail.com

2017

「コミュニケーション」の多義性

「コミュニケーションとは、言うならば、自分が頭の中に抱いている〈抽象的〉な広義の思考内容のコピーを相手の頭の中にも創り出す行為である」

出典：池上嘉彦 「II.伝えるコミュニケーションと読みとるコミュニケーション」 『記号論への招待』 37頁。

「コミュニケーション」の多義性

- 「意見の交換や意志の疎通」を示す
ex.) 「親子のコミュニケーション」、「企業のコミュニケーション」
- 「通信」を示す
ex.) 「コミュニケーション産業」
- 「往来や交通」を示す
ex.) 「都市間の交通コミュニケーション」

出典：石田英敬『記号の知／メディアの知：日常生活批判のためのレッスン』97頁。

「コミュニケーション」の語源

communicate 英語 v.t. 「伝達する」、 v.i. 伝え合う

→ **communicare** ラテン語 【コミュニカーレ】 **共通にする**

→ **communis** ラテン語 【コミュニス】 **共通の**

「共通にする」 ための手段としての「通じ合う」必要性

→ そこから **「伝え合う」** という今日的な意味が発生

何を「伝え合うのか」？

コミュニケーションにおいて、（直接的には）

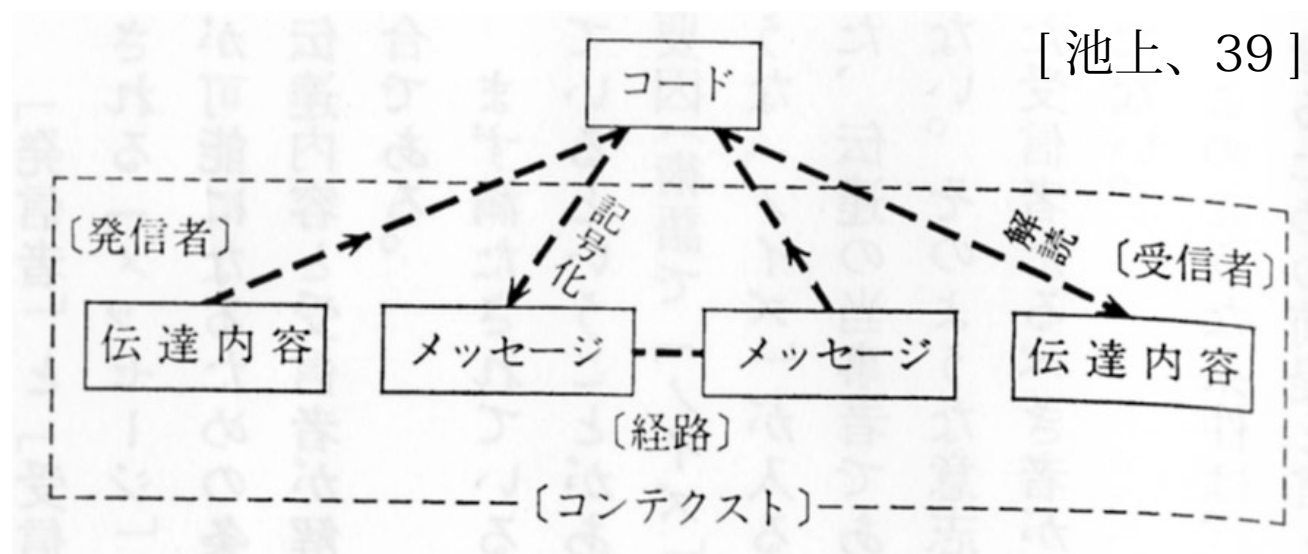
〈メッセージ〉 message を「伝え合う」ことになる

「メッセージ」とは？

伝達するためには、**思ったり感じたりしている事柄を**
表現する（文字通り、「**表に表わす**」）ということが**必要**である。
そのようにして**表現されたものが** 〈メッセージ〉と呼ばれる。

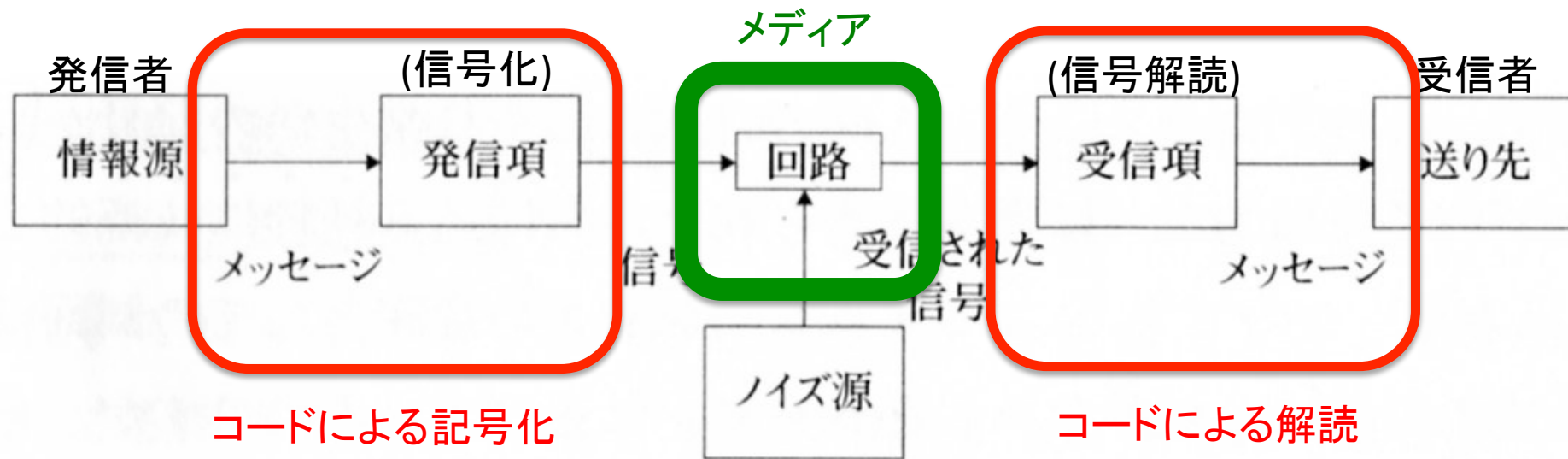
[池上、38-39]

「メッセージ」とは？



メッセージは、発信者と受信者との共通の了解に基づいた決まり
つまり、コード に従って「制作」され「解釈」される。

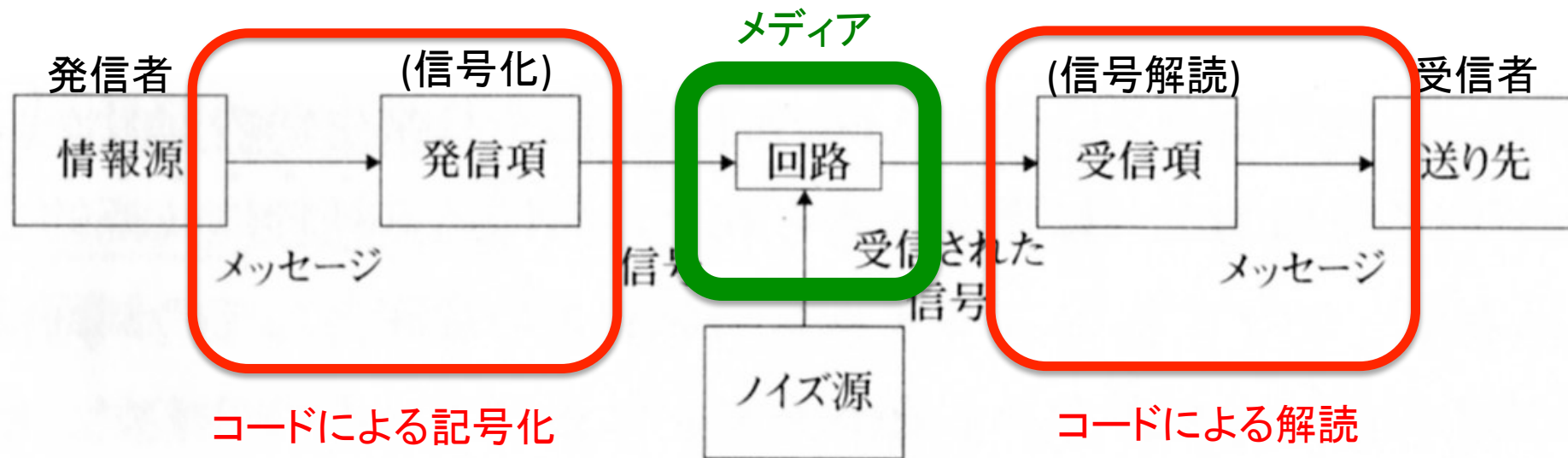
「シャノンとウィーバーのコミュニケーションモデル」(1949)



「シャノンとウィーバーのコミュニケーションモデル」(1949)

- 「電話モデル」に基づく技術的側面に限定したコミュニケーションを数量化 (数式化) した。
- 「コミュニケーション」の過程、情報量を数量化した。「情報エントロピー」の大小。

「シャノンとウィーバーのコミュニケーションモデル」(1949)



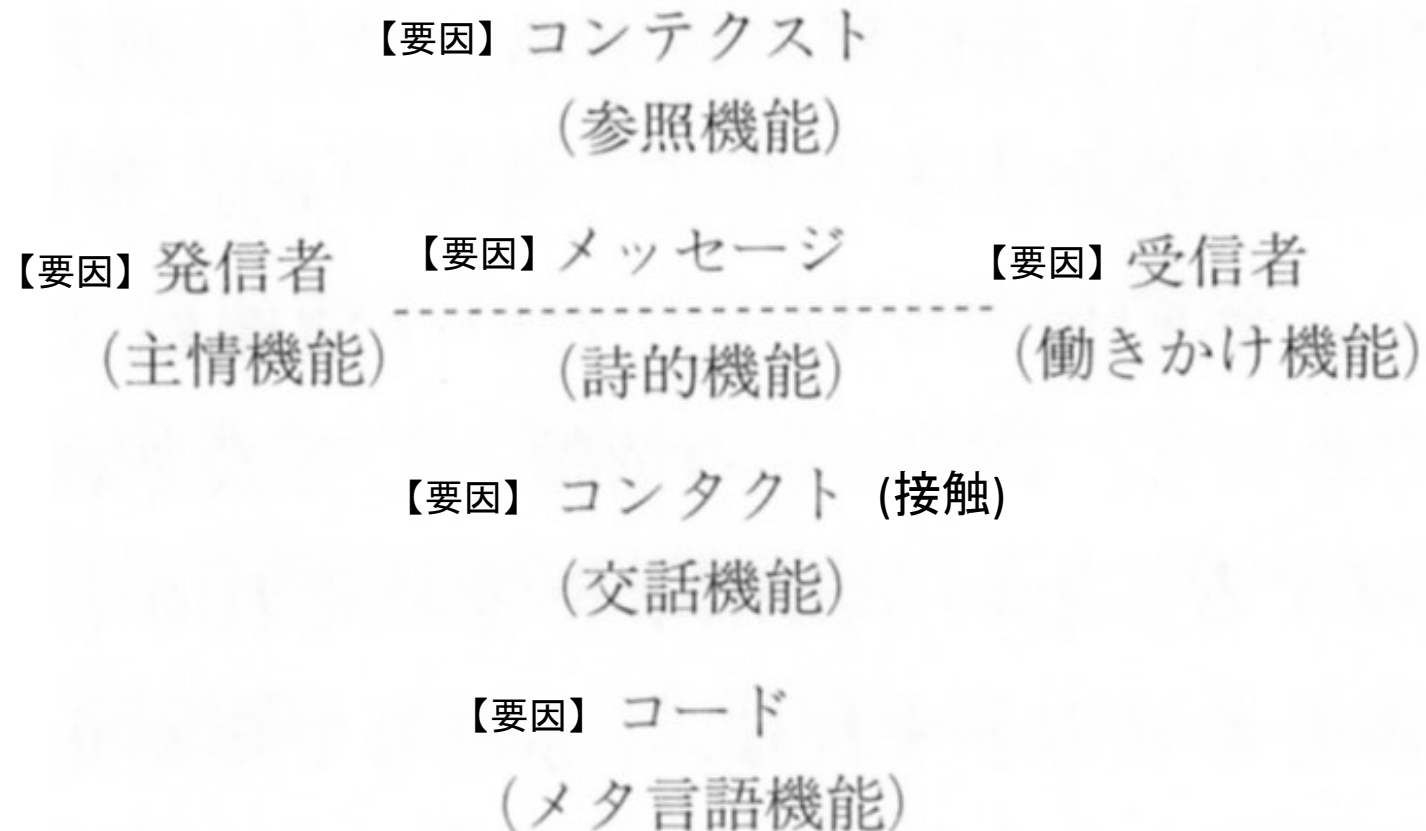
【原著】 C.Shannon & W.Weaver “*The mathematical theory of communication*” University of Illinois press, 1949.

【邦訳】 C・シャノン & W・ウィーバー 『コミュニケーションの数学的理論：情報理論の基礎』 長谷川淳ほか訳、東京：明治図書出版、1949年=1969年。

「シャノン-ウィーバー・モデル」への今日的批判

「このモデルは、情報工学のみならず、
人文・社会諸科学にも広く大きな影響を及ぼした」

ヤコブソンの「六機能図式」(1960頃)



ヤコブソンの「六機能図式」(1960頃)

- ・ シャノンらのモデルで用いられた用語を言語学分野に取り入れてモデル化
- ・ コミュニケーションを構成するために必須な6つの要因を指摘
- ・ 6つの要因にそれぞれ対応する 6つの機能を指摘

ヤコブソンの「六機能図式」(1960頃)

発信者 - 主情機能:「ああ!」という嘆きなど、話し手の感情を直接表す機能

受信者 - 働きかけ機能:「～しなさい」とする 命令 や依頼を表す機能

コンテキスト - 参照機能: 語が用いられている状況、前後関係の文脈を表す機能

コンタクト (接触) - 交話機能:「ねえ」等、相手の注意を引き、注意の持続を促す機能

コード - メタ言語機能: 言語の文法や、言語活動をめぐる様々なルールを示す機能

メッセージ- 詩的機能: メッセージそのものへの志向により表現を際立たせる機能

「シャノン-ウィーバー・モデル」への今日的批判

「このモデルは、情報工学のみならず、
人文・社会諸科学にも広く大きな影響を及ぼした」

(しかし)

「機械間の通信のみならず、人間のコミュニケーションにまで拡張すること
には、批判も多い」

→ コミュニケーションにおける、「コンテキスト」への着目へ

〈コンテキスト〉 context

「『文脈、前後関係、背景』の意。

語や文の意味を限定し、明確化する働きを持つ。

広くは作品の時代背景や作者に関する知識、

また文学の伝統や慣習も含む」